

ダニによる感染症について

9月になり、過ごしやすい季節になってきましたね。最近、話題となっているマダニによる感染症をご存知ですか？マダニによる感染症は北海道でもよくみられますが今、話題となっているのが「SFTS」です。8月、北海道で初めてこの感染症が確認されました。そこで今回はマダニによる感染症に取り上げます。

マダニによる感染症の種類と症状

病名	主な症状	治療
ライム病 ボレリア属の細菌が原因	発熱、倦怠感、慢性游走性紅斑、まれに心筋炎・髄膜炎	抗菌薬
回帰熱 ボレリア属の細菌が原因	発熱、筋肉痛、関節痛、倦怠感	抗菌薬
ダニ媒介脳炎 ウイルスを保有するマダニに咬まれて感染	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、けいれん、髄膜炎、脳炎など	対症療法
重症熱性血小板減少症候群（SFTS） SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれて感染	発熱、筋肉痛、消化器症状、神経症状等	抗ウイルス薬

* マダニによる感染症と言ってもこんなに種類があります。また、細菌感染なのか、ウイルス感染なのか、によっても治療法が変わってきます。2021年に北海道で新たなダニが媒介する感染症のウイルスが発見され、「エゾウイルス」と命名されました。現在、情報収集と調査研究がおこなわれています。

最近話題のSFTSの特徴は？

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）はこのウイルスを保有するマダニに咬まれたり、SFTSを発症している動物との接触によっても感染します。潜伏期間は6～14日程度です。

日本では2013年に初めて国内で感染が確認されてから、毎年100人以上が感染。2025年はすでに過去最高の135人の感染者が発生しています。

また、SFTSは日本では主に西日本を中心に発生していましたが、近年は東日本でも発生が確認されています。さらに、2025年8月、北海道外への移動歴のない方が道内で発生したことが確認されました。SFTSは海外に比べて日本では死亡する確率が高くなっています。

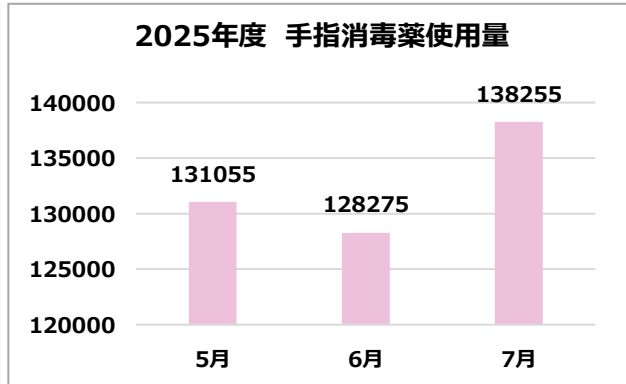
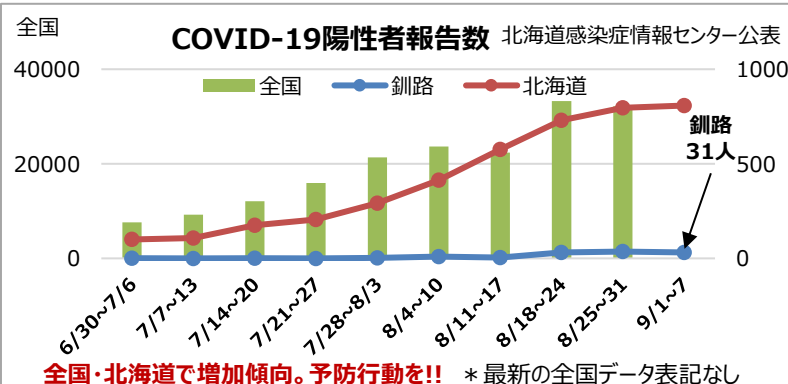
マダニによる感染症予防と対処法

マダニは山や草むらにいます。長袖、長ズボン、帽子、手袋着用しましょう。虫よけスプレーも使用しましょう。靴は完全に足を覆うもの、ズボンの裾は靴下に入れる、首はタオルなどで覆うようにしましょう。体調が悪いペットとの接触は避け、接触した場合は手洗いをしましょう。

ダニに咬まれた場合は、無理に引き抜こうとせず、病院へ行きましょう。咬まれた後、数週間は体調変化に気を付け、発熱等があれば病院受診を！。

ダニ媒介感染症の発生届について

ダニ媒介感染症は4類感染症です。保健所を通して衛生研究所にて詳細の検査ができ、その際には保健所と調整が必要です。必要書類の記載も求められますので感染管理者までご連絡下さい。



感染症対策のお願い

発熱などの有症状時は直接受診することは控え、病院へ連絡してから来院して下さい。当院への受診の際は必ず、マスク着用をお願いします。また、受診時の付き添いの方は1名までとさせていただきます。面会は個々の患者さんの状態に応じて対応しています。陽性の方は症状悪化した場合等は診断を受けた医療機関へご相談下さい。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。